

南小たば風通信 2018

平成30年11月9日(金) 第26号

今金町立今金小学校 公開研究会 参加レポート

平成30年11月2日(金)に今金町で開催された「今金町立今金小学校 公開研究会」に参加してきました。今回の研究会は、「学校力向上」だけではなく、「学校図書館活用促進事業」の研究会も兼ねており、学校図書館や町立図書館との連携についてもいろいろと勉強になりました。いただいた資料等は遅くなりましたが回覧していますのでご覧になってください。

① 公開授業3年生「物語のおもしろいところをしょうかいしよう」(モチモチの木)

- ・児童が学習の見通しをもてるように、単元計画を掲示している。
- ・町の図書館と連携して「まなBOOK」という、各教科、単元に関わる本を集め、特別コーナーに設置する取り組みをしている。今回は「モチモチの木」に関連がある本が置かれていた。
- ・授業は、図書室から借りた物語の「おすすめ図書カード」をグループで作成し、紹介するという展開で考えられていた。しかし、カード作成に時間がかかり、最後に強引に発表して終わってしまった。その点について、長い時間を使って作業させていたが、3年生に時間配分させるのは難しいと思うので、グループで話し合う時間、カードを書く時間と教師側が区切ることである程度のグループが完成できたのではという意見があった。また、書くことが主たる単元ではないので、途中でも止めさせて、できているところまでで発表させればよかったという意見も出ていた。

**② 公開授業5年生「本のすいせんをしよう」(雪わたり)**

- ・ICTの活用で、タブレットを使用して、画像をテレビに映していた。テレビは上から吊り下げられているので、あまり大きいテレビではなかったと思うが、見づらくはなかった。
- ・「雪わたり」には、「寒水石」「封蝨細工」など、子どもにあまりなじみのないものが多く登場するが、実物を用意し、自由に触れさせることで、少しでも理解を促してい



た。

・授業は、比喩を中心に情景描写を読み取り、「雪わたり」の面白さを感じ取る内容であった。写真を見て自分で比喩表現の文を書き、その上で「雪わたり」の比喩表現から一番工夫している表現はどれかというものを考える

活動をしてしたが、「一番工夫している」とはどのようなものなのか、曖昧で考えにくかったのではないかという意見が出ていた。また、たくさんの比喩が黒板に登場したが、「低位の児童が分かりにくいと思うので、比喩表現に線を引くなどしてあげればよかった」という意見、ペア交流を主に行っていたが、「意図や内容によってはグループを活用した方がよかった場面もあったのでは」といった意見などが出ていた。

③ 講演会「子どもが読む力を高める、国語指導」鹿内信善

- ・学校図書館について書かれた本で。『高校図書館デイズ』という本はお薦め。
- ・「読むこと」ではなく、「見ること」から始まる学習もあるはずだが、日本ではあまり重要視されてはいない。これは世界的に見ても遅れている。「見ること」「見る学力」を大切にしていきたい。
- 「見ること」の指導は、発問や指示を工夫して行う。「よく見て」と言っても、どういう風に見ればいいのか分からないから、見ることができない。絵を見て10個の「もの」を探させたり、どのような「こと」が描かれているか考えさせることで、結果的に「よく見る」ことができる。
- ・対話的な学習では、「ラウンドロビン」（順番に話す）、「バズセッション」（くつろいだ雰囲気ですべて自由に話す）などを使いこなしていくとよい。
- ・児童が進んで授業に参加するためには、教材の「わかりにくい」ところを活用する。ここでいう「わかりにくさ」とは、難しく理解しにくいという意味ではなく、「気づかれにくい」という意味の「わかりにくさ」である。

そのほかにも、学校の取り組みとして、毎週火曜日の朝学習の時間に「ミニ作文」を書く活動をしているようです。テーマを決めて、毎週取り組むことで、書くことに抵抗がなくなったり、書く技能も向上しているそうです。南小の読書もそうですが、継続することが大切だと思いました。